

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要

京丹波町教育委員会

令和3年5月27日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における本町の結果の概要についてお知らせします。

## 【令和3年度全国学力・学習状況調査の概要】

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査実施日及び調査の対象

令和3年5月27日（木） 小学校第6学年児童（5校：84名）  
中学校第3学年生徒（3校：82名）

### 3 調査内容

#### （1）教科に関する調査

小学校：国語（14問） 算数（16問）

中学校：国語（14問） 数学（16問）

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\* 教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部です。

## 1 教科に関する調査結果の概要

《平均正答率（百分率）からみる全国との比較の基準》



	国語	算数・数学
京丹波町 小学校6年生	同程度	やや下回る
京丹波町 中学校3年生	同程度	やや下回る

【小学校】 ＊新学習指導要領に基づく内容及び観点

- 国語 ○学習指導要領の内容別（以下、内容別）では、「**思考力・判断力・表現力等のB 書くこと**」が**良好な結果**となった。他の内容別（「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等のA 話すこと・聞くこと、C 読むこと」）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 評価の観点別（以下、観点別）では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題（3二）」は**良好な結果**が見られたが、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題（2二）」はやや課題が見られた。
- 算数 ○学習指導要領の領域別（以下、領域別）では、「**A 数と計算**」、「**C 測定**」が**やや下回る結果**、「**C 変化と関係**」は**課題**が見られる結果となった。他の領域別（B 図形、D データの活用）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「知識・技能」が概ね全国平均程度、「**思考・判断・表現**」が**やや下回る結果**となった。
- 設問別では、「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題（1(1))」「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題（1(2))」をはじめ、**7つの問題にやや課題**が見られた。
- 共通 ○無回答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、児童が意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

【中学校】 ＊旧学習指導要領に基づく領域及び観点

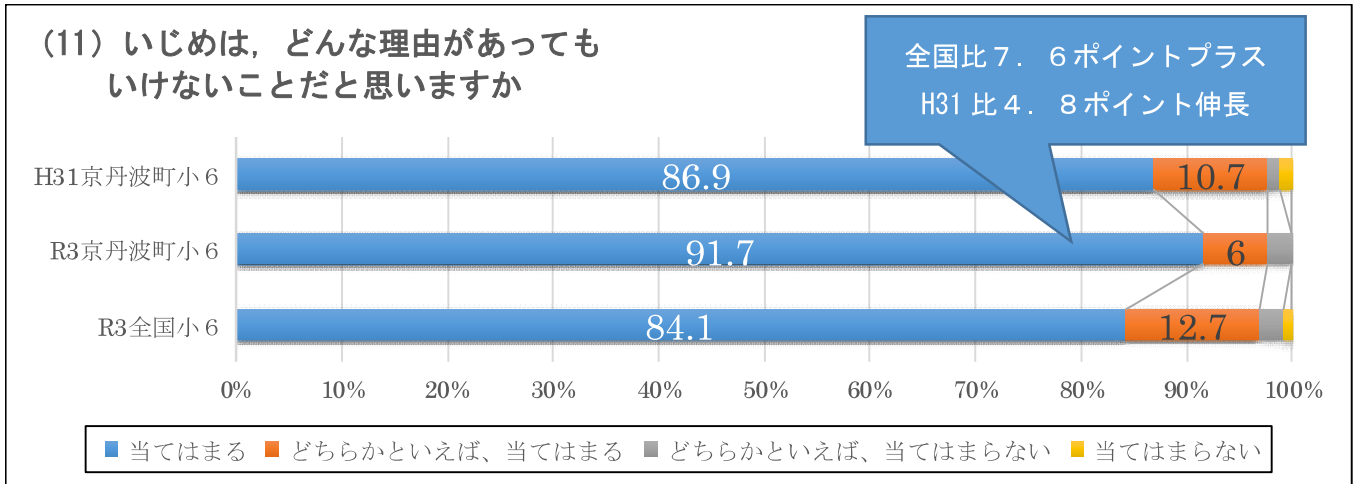
- 国語 ○領域別では、すべての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）が、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別でも、すべての観点（「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」）が、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題（4二）」「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題（3四）」は**良好な結果**が見られたが、「相手や場に応じて敬語を適切に使う問題（4三）」「文脈に即して漢字を正しく読む問題（4一②）」等は**やや課題**が見られた。
- 数学 ○領域別では、「**図形**」「**関数**」が**やや下回る結果**、「数と式」「資料の活用」は概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「**数学的な技能**」が**やや上回る結果**、「**数学的な見方や考え方**」「**数量や図形などについての知識・理解**」が**やや下回る結果**となった。
- 設問別では、「与えられたデータから中央値を求める問題（5）」等は**良好な結果**が見られたが、「関数の意味を理解する問題（4）」をはじめ、**3つの問題に課題**が見られた。
- 共通 ○無回答率は、すべての問題で全国平均より低く、生徒が粘り強く、意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

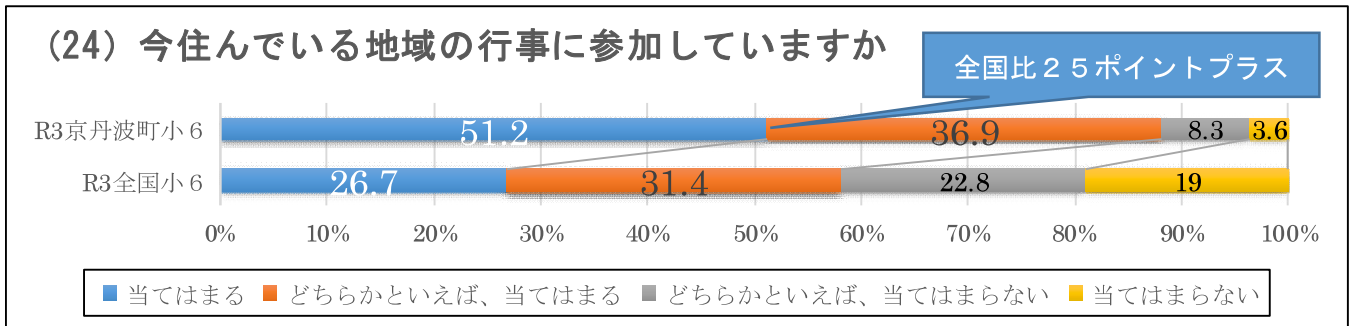
小学校6年児童及び中学校3年生徒を対象に69項目の質問紙調査が行われました。その結果のうち、「強み」として更に伸ばしていきたい項目、改善され「伸長」が見られる項目、今後「改善が必要」な項目に絞って掲載します。

### 【小学校】

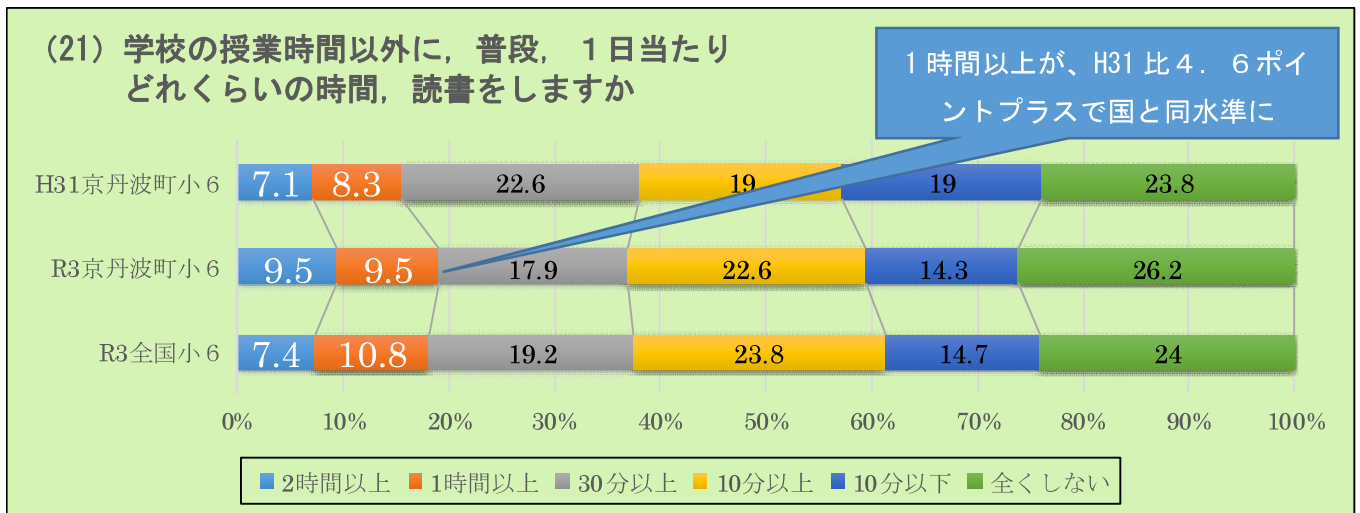
○強みとして、「いじめはいけない。」という人権意識が高く、H31調査と比べても、より強化されている。



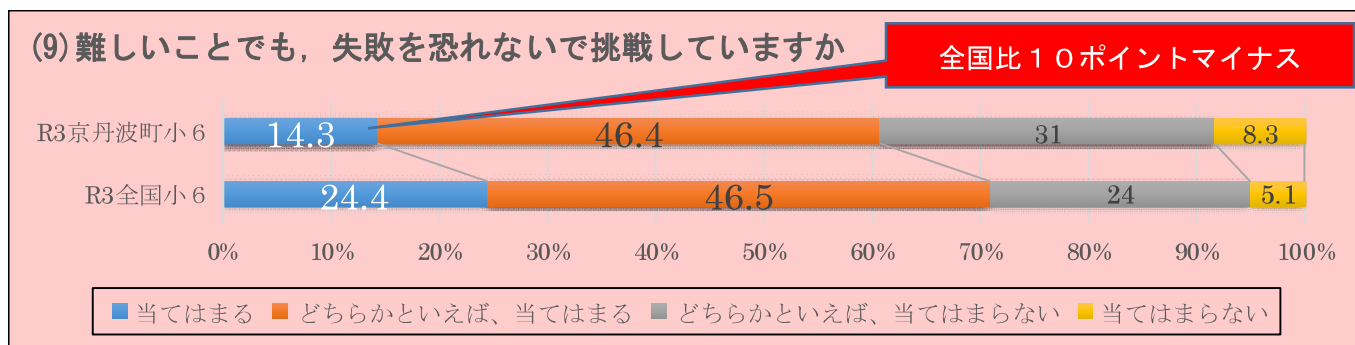
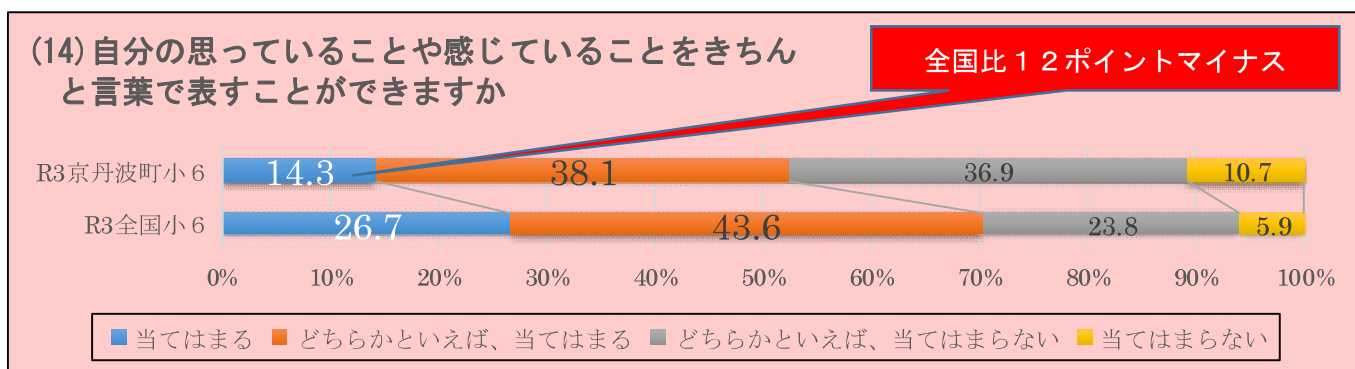
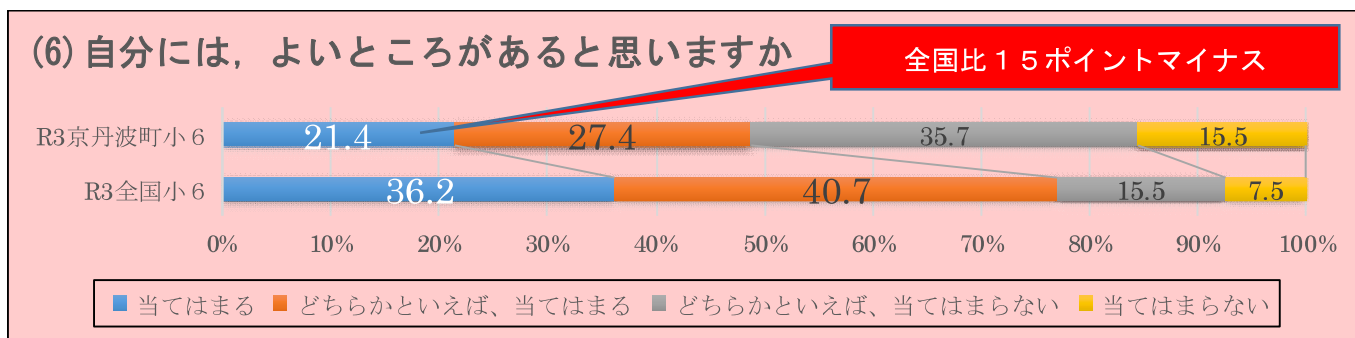
○コロナ禍であっても、地域とのつながりを大切にしている。



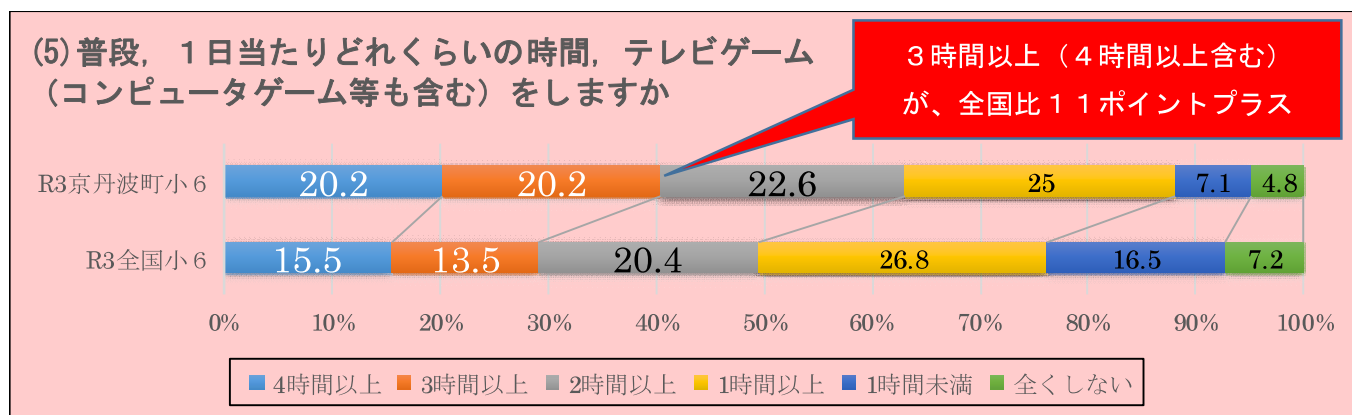
○1時間以上読書する児童が増えてきた。半面、全く読書しない児童も微増した。



○自分に自信が持ちきれず、自分の思いを言葉で伝えることが苦手で、チャレンジに消極的な面がある。幼少時から、まわりの大人が子どもの言葉を傾聴するとともに、子どもの良いところや、結果に囚われず努力したところをしっかりと評価していく必要がある。

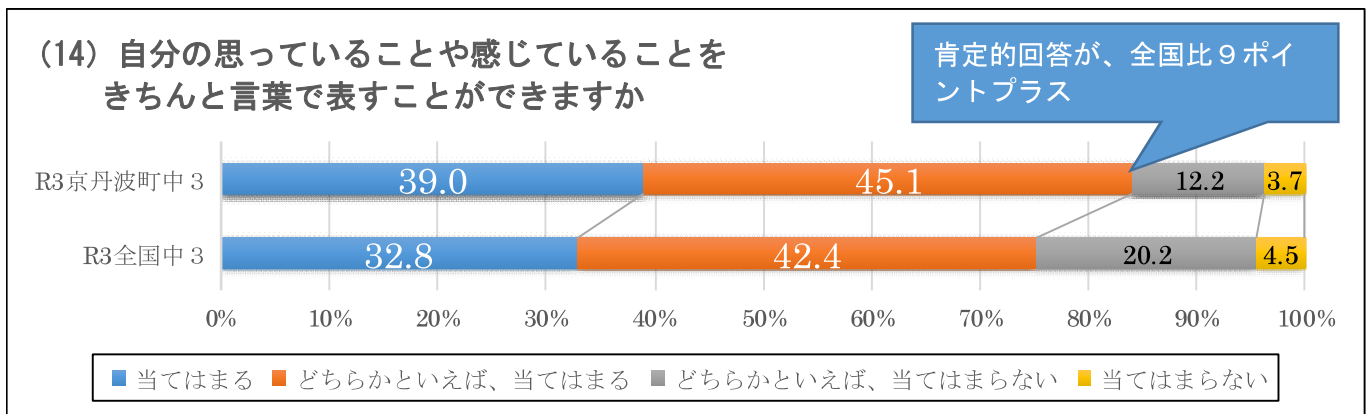
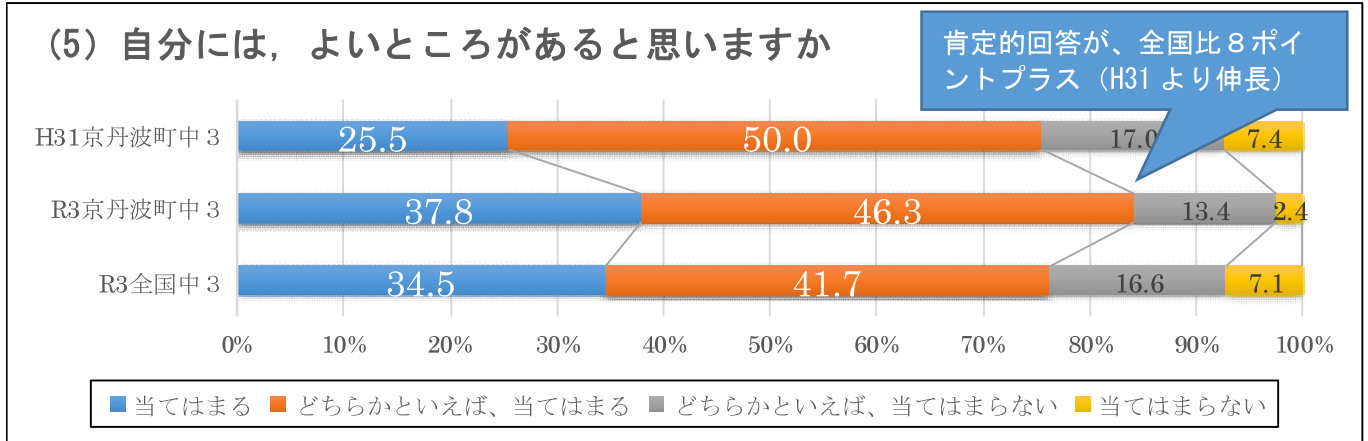


○3時間以上ゲームをしている児童の割合が高い。家庭でしっかりと「納得し合えるルール」を作り、児童が自己管理できる力を育てる必要がある。

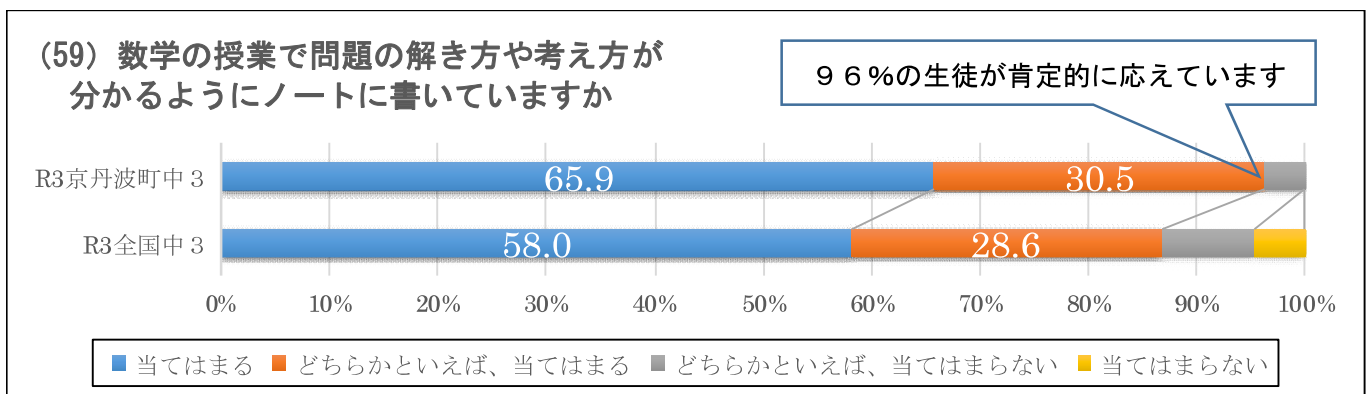
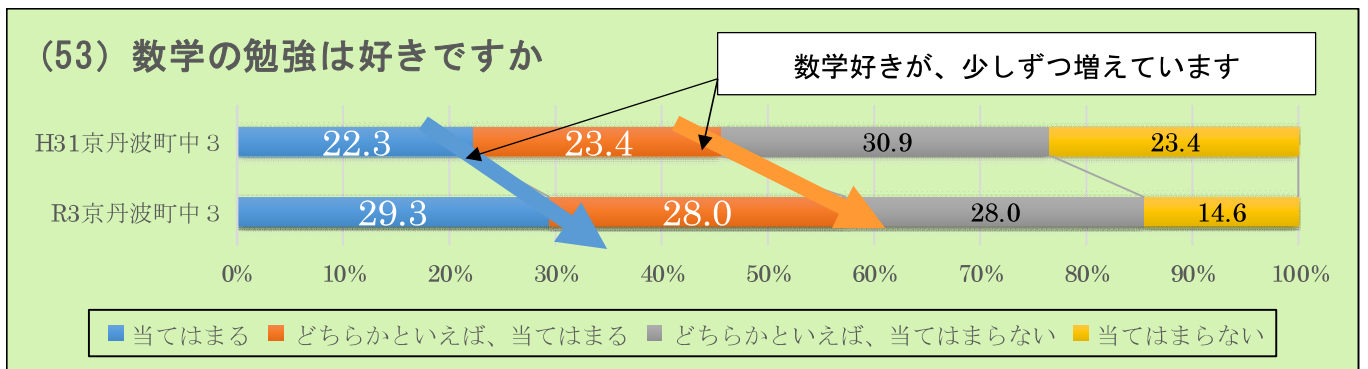


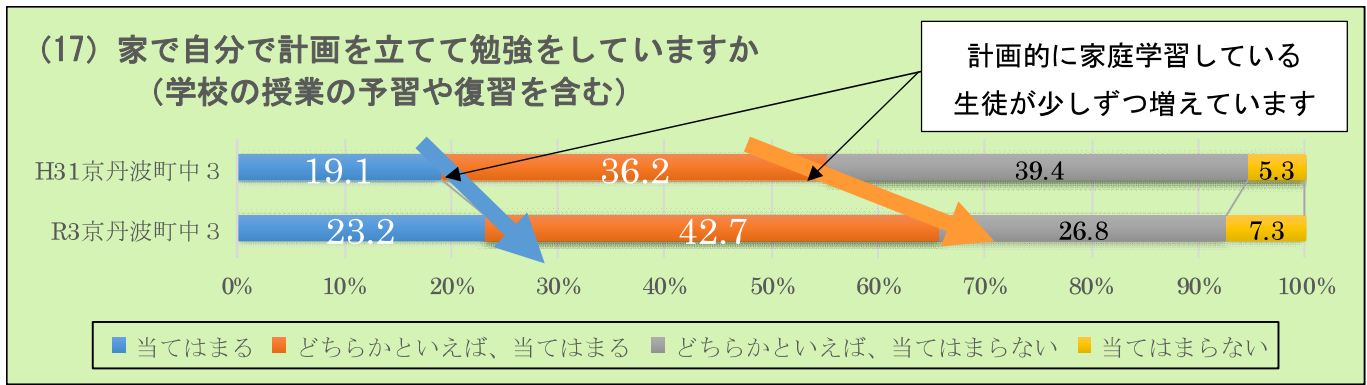
【中学校】

○強みとして、自己肯定感が高く、自分の思い等をきちんと言葉で表すことができる。

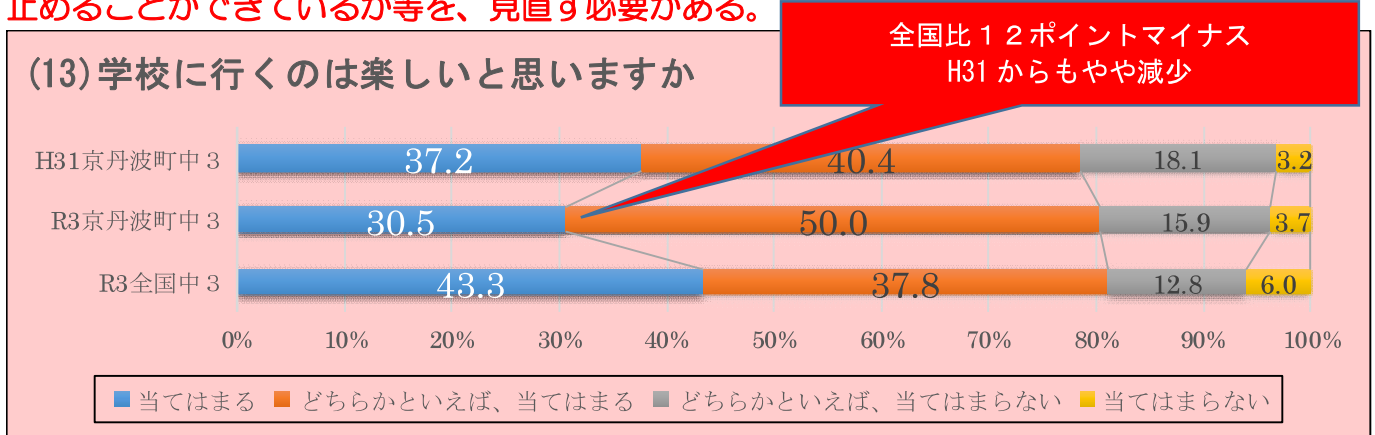


○「数学の勉強が好きな生徒」が少しずつ増えています。その背景には解き方、考え方が分かるノートづくり、家庭での計画的な学習等、生徒の努力や工夫がうかがえます。

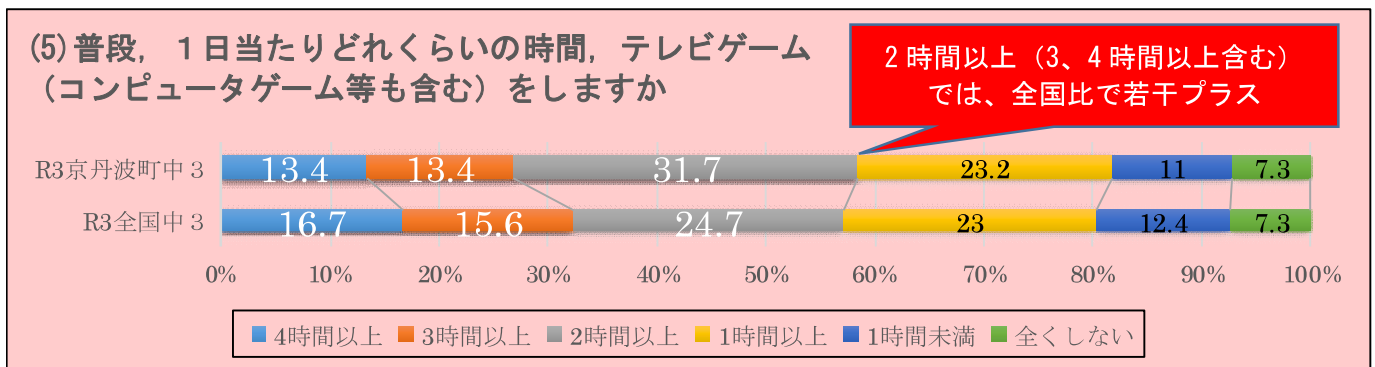




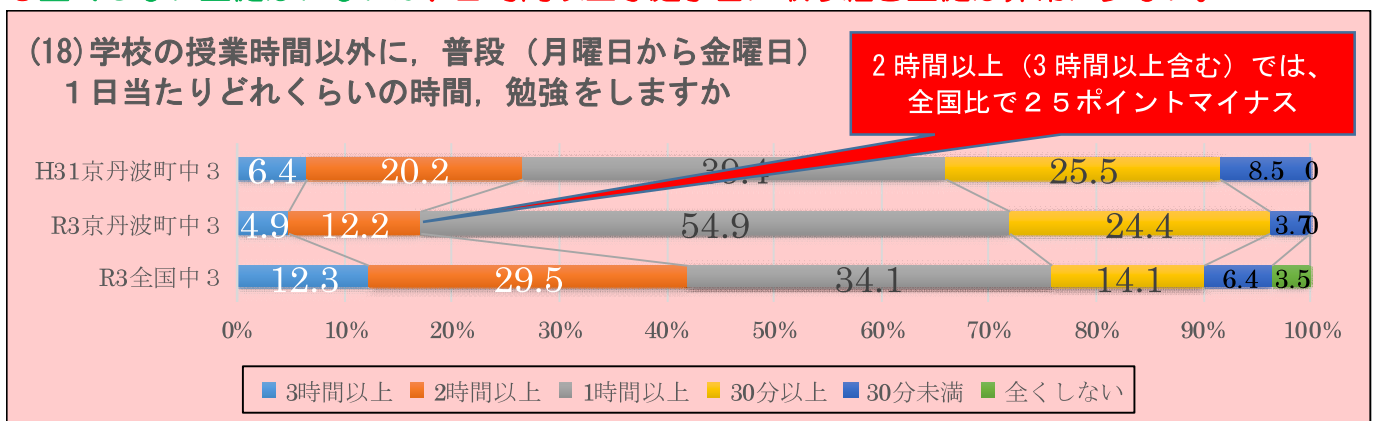
○「当てはまる」という積極的の回答が低下した背景をつかみ、生徒の困り感等をしっかりと受け止めることができているか等を、見直す必要がある。



○3時間以上では全国比でマイナスだが、2時間以上では全国比で若干プラスとなる。家庭でしっかりとルールを共有し、生徒が自己管理できる力を育てる必要がある。



○全くしない生徒はいないが、2時間以上家庭学習に取り組む生徒は非常に少ない。

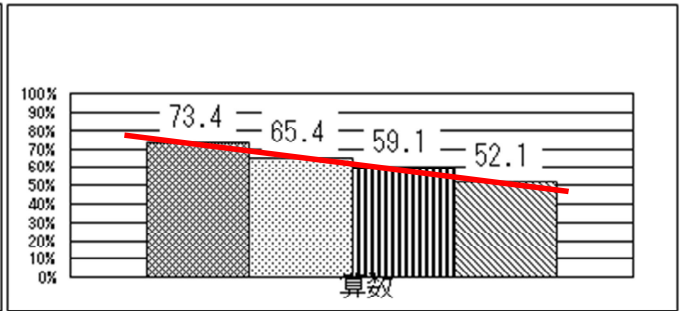
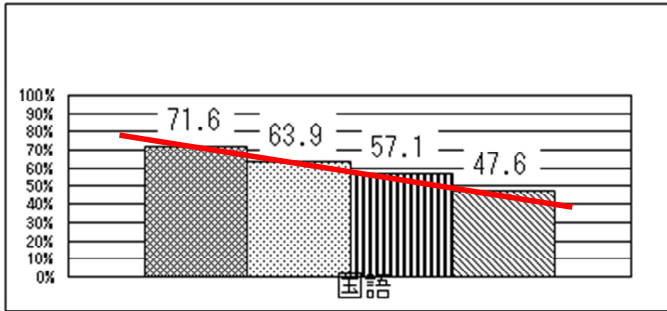
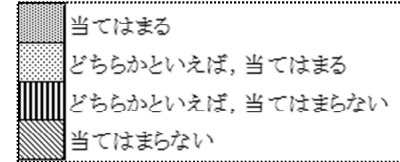


### 3 正答率と相関が見られた質問項目について

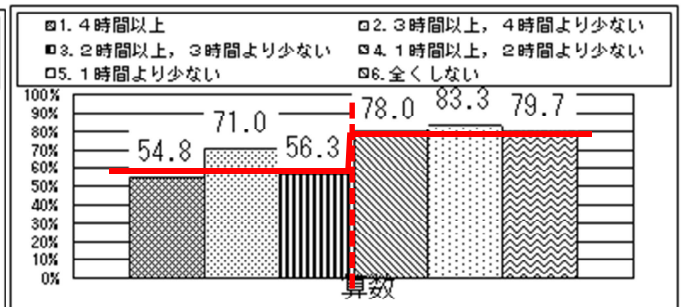
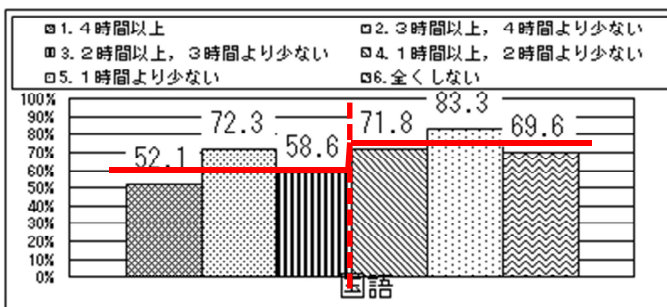
学力は、学習活動以外の様々な要素（生活習慣、興味・関心、学習環境、非認知能力等）に大きな影響を受けます。質問紙調査項目における回答ごとの正答率を見ることで、学力と相関があると考えられる要素を推定できます。以下に、顕著な相関を示した項目を掲載します。

#### 【小学校】

質問番号	質問事項
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

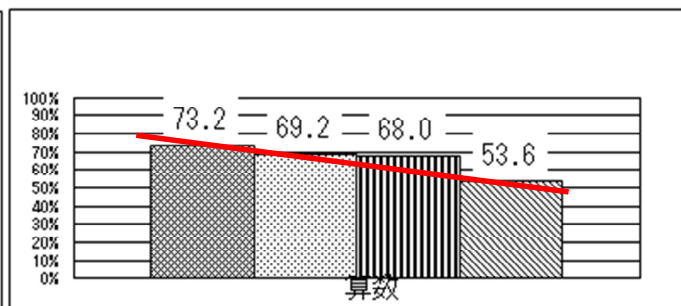
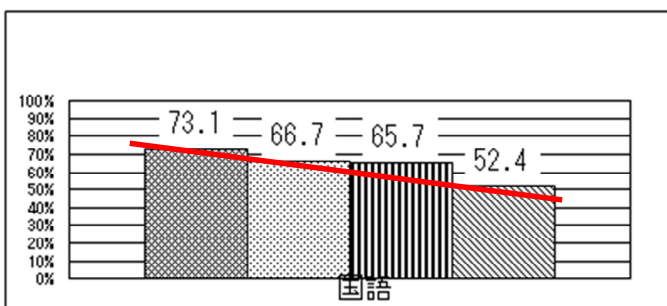


質問番号	質問事項
(5)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



就寝時刻を自己管理できる児童は平均正答率が高い。就寝時刻はゲームに大きく左右されると思われ、ゲーム時間の長短は2時間を境目として、平均正答率に差が出る。

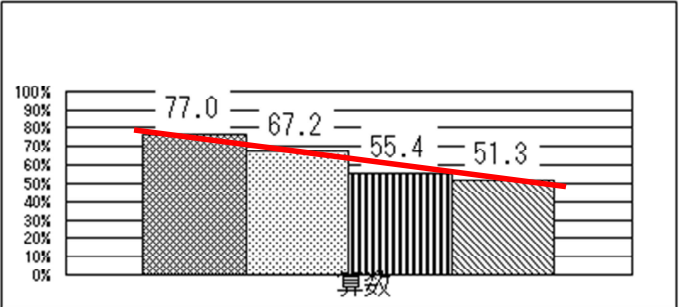
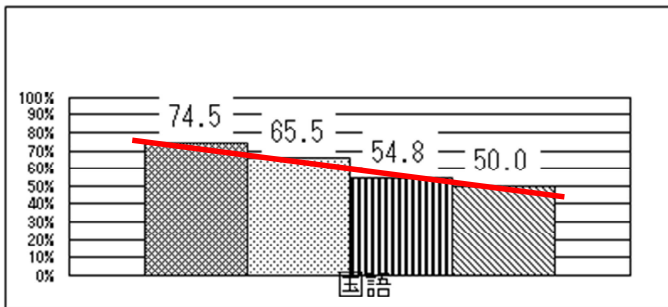
質問番号	質問事項
(15)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



自分と異なる意見を受け入れ、楽しめる児童は平均正答率が高い。「聞く耳」を持つことで、意見や考え方の多様性を知り、自分の考えを深めることができるからだと思われる。

(38)

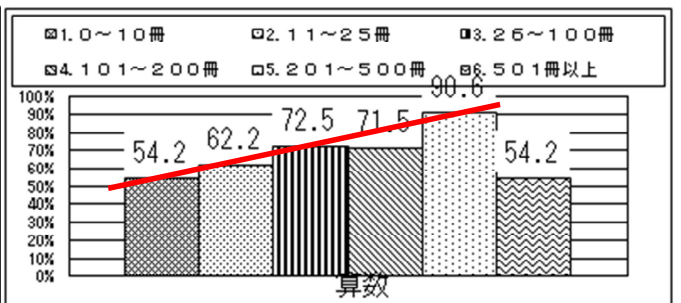
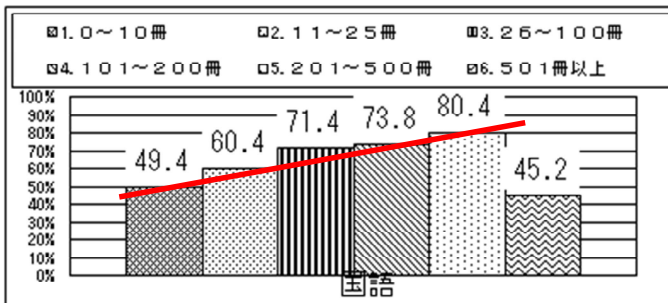
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



学習内容を振り返り、次の学習へつなげることができる児童は平均正答率が高い（メタ認知能力）

(22)

あなたの家には、およそどれくらい本がありますか  
(雑誌、新聞、教科書は除く)



501冊以上と答えた児童を除き、蔵書数が多い家庭の児童ほど平均正答率が高い。蔵書数が本への親しみに繋がり、読書環境が児童の読書意欲に影響し、語彙や読解力の伸長に影響を及ぼすと思われる。

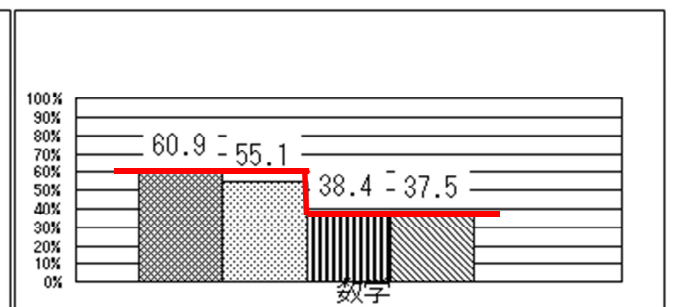
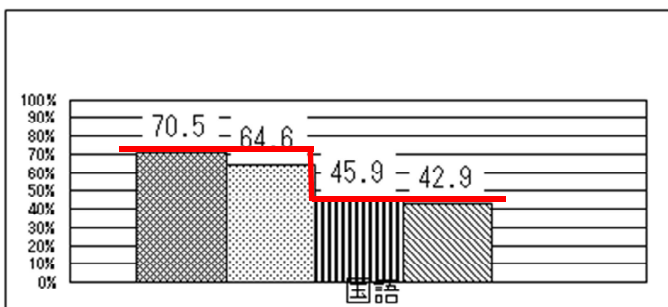
### 【中学校】

質問番号

質問事項

(37)

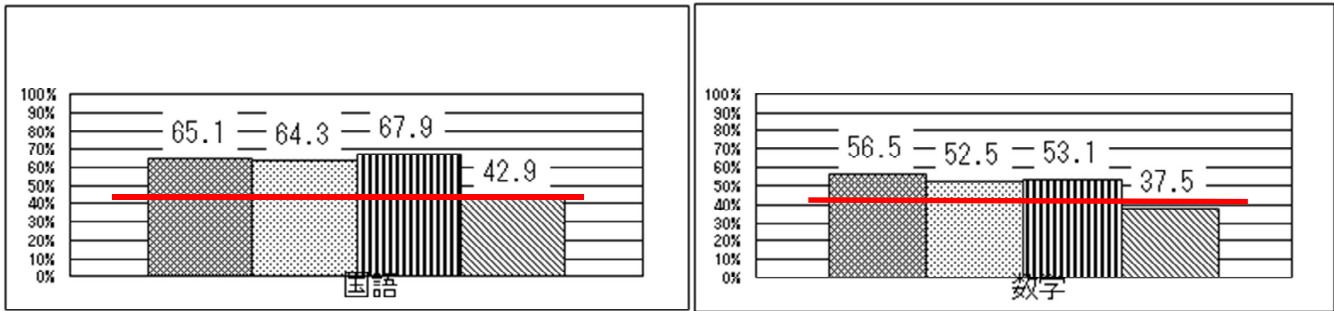
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることを大切にしている生徒は平均正答率が高い。

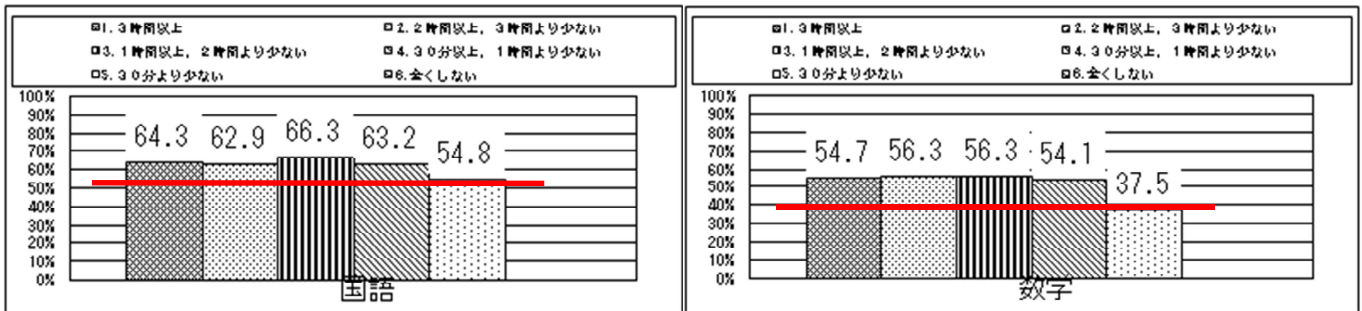


質問番号	質問事項
(16)	友達と協力するのは楽しいと思いますか



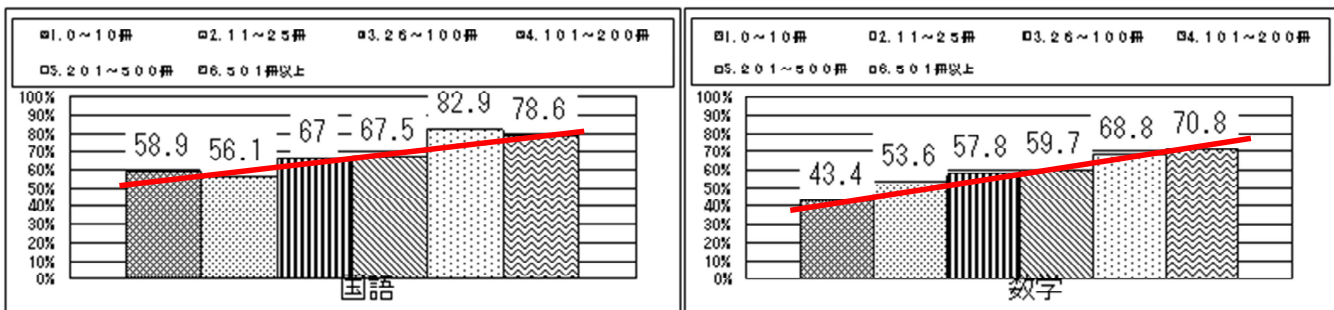
「友達と協力するのは楽しくない」と考えている生徒は平均正答率が低い。「協力する」は生徒相互の関係性に左右されるので、互いを尊重する温かいクラスづくりが大切だと思われる。

質問番号	質問事項
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



京丹波町の中学3年生では、家庭学習時間と平均正答率の相関は低い。ただし、家庭学習時間が30分より少ないと答えた生徒は、極端に正答率が低い。

(22)	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）
------	---------------------------------------



小学校での結果と同様に、蔵書数が多い家庭の生徒ほど平均正答率が高い。蔵書数が本への親しみに繋がり、読書環境が児童の読書意欲に影響し、語彙や読解力の伸長に影響を及ぼすと思われる。

## 4 京丹波町における学力充実・学力向上の取組について

京丹波町では平成29年4月に、『学びを育む京丹波町メソッド』を町内全教職員に提起して、「ユニバーサル・デザイン」と「授業改善」の視点を踏まえ、児童生徒を学びの主体者にすることで学力の向上を目指す取組を続けています。

### ◎『学びを育む京丹波町メソッド』の理念の徹底と定着を図り、学習指導要領に示される資質・能力の育成に向け、授業改善を図る。

- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進める
- ・ 誰もが安心して自分の力を発揮でき、一人一人が大切にされる集団づくりを進める
- ・ 付けたい力を明確にし、「めあて」から「振り返り」まで一貫した授業を展開する
- ・ 単元指導計画に基づき、ねらいを明確にした話し合い活動やグループ学習等を導入し、言語活動の充実を図る

### ◎教育委員会が各小・中学校との連携を強化し、各校がPDCAサイクルで学力充実・学力向上を図る『学力向上システム』の構築を図る。

- ・ 各校が、学力診断テスト結果等の分析を行い、課題を明確化し、課題解決の方策を全教職員で共有して取組を展開する
- ・ 各校が、授業とつなぐ家庭学習のあり方を工夫し、家庭学習の充実を図る
- ・ 教育委員会は、指導主事の学校訪問、町独自の学力診断テストの実施（12月～1月）、町独自の学習支援員の配置等により、各校の取組を支援する

### ◎校内研修の活性化を図るとともに、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームによる支援を組織し、『教職員の指導力（授業力）向上』を図る。

- ・ 各校が、指導力（授業力）の向上に向け、研究授業を軸とした校内研修を充実させる
- ・ 算数・数学を重点教科として、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームが各校の事前研究会、研究授業、事後研究会に参加し、校内研修の充実を支援する
- ・ 外部講師（大学教授等）を招聘して、新たな知見を導入し研修を活性化

### ◎各中学校ブロック（蒲生野、瑞穂、和知）において、幼稚園（保育所）・小学校・中学校の連携を密にし、『学びの連続性』を図る。

◎コロナ禍においても、感染症対策を徹底したうえで、「教科等の学習機会」を保障するとともに、「学校教育ならではの学び（学校行事、部活動等）」を大切にして、「体験」「友達や集団との関わり」を通して学んだり気づいたりすることで、認知能力と非認知能力を一体的に育むことを目指す。